

ニュースクリップ & 映像教材

■「eスクール ステップアップ・キャンプ2019」横浜市、岡山県倉敷市にて開催決定

(一財)日本視聴覚教育協会・日本視聴覚教具連合会主催、文部科学省共催による標記研修会(写真)は、「東日本大会」を令和元年11月20日(水)、横浜産貿ホールMARINERIA(横浜市)、「西日本大会」を令和2年1月18日(土)、倉敷市児島文化センター(岡山県倉敷市)の2箇所で開催する(46頁参照)。



写真・昨年の様子

協会情報

■令和元年度全国自作視聴覚教材コンクールに96作品が応募

(一財)日本視聴覚教育協会主催、文部科学省後援による標記コンクールの今年度の参加作品は、96作品。内訳は、小学校部門(幼稚園・保育所を含む)29作品、中学校部門8作品、高等学校部門8作品、社会教育部門51作品。8月中に審査が行われ、本誌9月号上で入選作品を発表。表彰式および発表会は、令和元年9月13日(金)、東海大学校友会館(千代田区霞が関3-2-5)にて行う。

文部科学省情報

■学校教育の情報化の推進に関する法律(令和元年法律第47号)を通知

すべての児童生徒がその状況に応じて効果的に教育を受けることができる環境の整備を図るため、「学校教育の情報化の推進に関する法律」が、令和元年6月29日、公布、施行されたこととともない、文部科学省は、各都道府県知事、各都道府

県・指定都市教育委員会教育長等宛てに本通知を行った。詳細については、下記を参照のこと。

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/1418577.htm

<お問い合わせ先> 初等中等教育局情報教育・外国語教育課企画係 TEL03-5253-4111 (内線2004)

AV情報

■2019年度放送文化基金助成先募集

(公財)放送文化基金では、放送文化の発展向上に寄与することを目的として、放送に関連する調査・研究、事業に対する助成を行っており、本プロジェクトの助成先を募集する。

<対象>○技術開発/放送技術に関する研究・開発—放送技術にかかわりのある基礎的研究および人間の生理・心理等に関する研究など。○人文社会・文化/放送に関する人文・社会科学的な調査・研究、および文化的な事業—放送の社会的、文化的、教育的な役割、影響、効果に関する調査・研究など。

<内容>令和2年4月から令和3年3月に実施す

る研究・開発・事業。助成金は、6,000万円を予定（1件あたり申請限度額500万円）。

<申請期間>令和元年9月1日（日）～30日（月）

<問い合わせ先>（公財）放送文化基金

TEL 03-3464-3131

研究会情報

■第9回情報教育研究会総会・研究大会

情報教育研究会では、「AIが切り拓く教育の未来」をテーマに標記大会を開催する。

<日時>令和元年8月19日（月）13:10～17:00

<会場>聖徳学園中学校・高等学校（東京都武蔵野市境南町2-11-8）

<内容>講演・企業プレゼン「AIを活用した新しい学び各社のとりくみ」、研究発表「ICT、AI等を活用した学びの実践」、企業展示等。

<問い合わせ先>情報教育研究会事務局 鷗友学園女子中学高等学校 佐藤

MAIL nyukai@infoedu.jp

コンクール情報

■第4回全国小中学生プログラミング大会

全国小中学生プログラミング大会実行委員会主催による標記大会開催にあたり、作品を募集している。

<応募資格>日本国在住の6歳以上15歳以下（平成31年4月1日時点）の小・中学生に限る。

<内容>テーマは自由。PC、スマートフォン、タブレットで動作するプログラムやアプリ、ゲーム、ムービーなどのソフトウェア、ロボット、電子工作などのハードウェアであれば使用言語や作品形式は問わない。

<表彰>賞状および副賞。

<締切>令和元年9月2日（月）

<問い合わせ先>（株）角川アスキー総合研究所
TEL 03-5840-7800

■第15回IPA「ひろげよう情報モラル・セキュリティコンクール」2019作品募集

（独）情報処理推進機構（IPA）では、標記コンクールの作品を募集している。

<テーマ>情報モラルおよび情報セキュリティ

<応募資格>国内の学校。小学生、中学生、高校

生、高専生

<部門>標語、ポスター、4コマ漫画、書写（硬筆）、活動事例。

<表彰>最優秀賞3作品（各部門1作品）、優秀賞9作品（各部門3作品）他。

<締切>令和元年9月13日（金）必着。

<問い合わせ先>IPAセキュリティセンター「コンクール事務局」 TEL 03-5978-7508

■ICT夢コンテスト2019実践事例募集

（一社）日本教育情報化振興会は、全国的にICTを有効に活用した教育活動が実践されるようになること目的とした標記コンテストにおいて、教育の実践事例を募集している。

<対象>学校の教職員（ICT支援員などの外部職員を含む）、教育委員会・教育センター、保護者、地域のボランティア、大学、企業、NPO法人等。

<テーマ>例 ICTを活用した効果的な授業、児童生徒の情報活用能力育成、ICT活用に関する校内教員研修、学校の授業や行事に対するICTを活用した支援活動など。

<賞>文部科学大臣賞（学校／地域）、総務大臣賞、NHK賞他。

<締切>令和元年9月20日（金）

<問い合わせ先>（一社）日本教育情報化振興会 ICT夢コンテスト事務局 TEL 03-5575-5365

■こころを育む総合フォーラム「2019年度子どもたちの“こころを育む活動”募集」

（公財）パナソニック教育財団は、家庭、地域、学校、企業などが連携し、子どもたちのこころを育むために献身、努力している活動を募集している。

<対象なる活動>家庭、地域、学校、企業などのさまざまなグループで、継続している活動。

<賞>全国大賞1件（50万円）、優秀賞5件程度（20万円）。

<締切>令和元年9月27日（金）17:00

<問い合わせ先>（公財）パナソニック教育財団 国内こころを育む総合フォーラム事務局
TEL 03-5521-6100

学会情報

■日本教育情報学会第35回年会

日本教育情報学会では、「超スマート社会に向

けた学びの変革」をテーマに標記年会を開催する。
＜日時＞令和元年8月24日（土）10：00～17：45、
25日（日）10：00～16：15

＜会場＞岡山理科大学岡山キャンパス（岡山県岡山市北区理大町1-1）

＜内容＞課題研究発表、記念講演、シンポジウム、一般研究発表、特別セミナー等。

＜問い合わせ先＞日本教育情報学会運営本部事務局 芦屋大学若杉研究室

MAIL jsei@ashiya-u.ac.jp

■日本教育工学会2019年秋季全国大会（第35回）

日本教育工学会は、標記全国大会を開催する。

＜日時＞令和元年9月7日（土）9：30～17：30、
8日（日）9：00～16：30

＜会場＞名古屋国際会議場（名古屋市熱田区熱田西町1-1）

＜内容＞シンポジウム、一般研究発表、セッション、企業展示等。

＜問い合わせ先＞日本教育工学会大会企画委員会（秋大会）

MAIL a-taikai2019@jset.gr.jp

■第44回教育システム情報学会全国大会

（一社）教育システム情報学会は、「知の共有支援技術で支えるレジリエントな学び」をテーマに標記全国大会を開催する。

＜日程＞令和元年9月11日（水）～13日（金）

＜会場＞静岡大学浜松キャンパス（浜松市中区城北3-5-1）

＜内容＞基調講演、一般・企画セッション、インタラクティブセッション他、企業展示等。

＜問い合わせ先＞（一社）教育システム情報学会全国大会委員会

MAIL jsise-desk@bunken.co.jp

各地の情報

■「教育の情報化」実践セミナー2019 in 鹿児島

日本教育工学会では、2020年度全日本教育工学研究協議会全国大会鹿児島大会のプレ大会として、「かごしま維新！学習指導要領改訂に対応した学びの姿」をテーマに標記セミナーを開催する。

＜日時＞令和元年8月26日（月）10：00～16：05

＜会場＞鹿児島中央公民館（鹿児島県鹿児島市山

下町5-9）

＜内容＞基調講演、実践報告、グループワーク、企業展示セッションなど。

＜問い合わせ先＞日本教育工学協会事務局

TEL 03-5575-0871

文部科学省選定作品

■6月選定 〔紙〕紙しばい 〔D〕DVD

「くまくんの うんどうかい？」〔紙〕12枚＜幼児、教養＞（株）童心社

「赤ちゃんの成長に影響します！タバコの煙で起こる健康被害」〔D〕24分＜成人、健康・スポーツ（保健・衛生）＞（株）映学社

映像作品等選定一覧の詳細は、下記を参照のこと。

http://www.mext.go.jp/a_menu/shougai/movie/main9_al.htm

短 信

■文部科学省初等中等教育局情報教育・外国語教育課の異動 令和元年7月16日付

○課長補佐 佐藤有正氏→初等中等教育局企画課専門官（併）学びの先端技術活用推進室長補佐

○北海道大学国際部国際連携課長 齋藤幸義氏→課長補佐

■ネパール政府映画行政機関「ビシスタ・ヨーグダン・サンマーン」表彰 伊藤敏朗氏

映画監督・東京情報大学非常勤講師であり、日本視聴覚教育協会評議員の伊藤敏朗氏が、令和元年7月1日ネパール政府の映画行政機関である映画開発委員会（FDB:Film Development Board）より、氏の多年にわたるネパール映画文化・産業への実績に対して、「ビシスタ・ヨーグダン・サンマーン」（特別貢献表彰）が授与された（写真）。



写真・表彰状を手にする伊藤氏（左）